

第 2 回以降の気候変動シンポジウム（案）

第 1 回では、日本における気候変動対策では、適応策に対する取り組みが遅れている現状を鑑み、緩和策と適応策の両方について、課題を整理した。第 2 回以降では、第 1 回の議論を踏まえ、分野別にシンポジウムを行う。

テーマ	目的・期待される効果・プログラム（案）	備考
第 2 回 ポスト京都メカニズムに向けた技術戦略 ～炭素貯留固定技術を中心として～	【目的】 ポスト京都に焦点を合わせながら、今後の気候変動対策の一つとして注目されている、炭素貯留固定技術について、その意義と実効性について議論する。 【プログラム（案）】 1. 開会の辞 2. 世界の気候変動対策の現状、気候変動対策技術と課題（基調講演）（①省エネ ②新エネルギー技術 ③炭素貯留固定技術） 3. シナリオ分析による温暖化対策の検討（バックキャスト、適応技術オプション） 4. ③の技術開発の経緯と今後の展望 CCS や炭素固定等 5. パネルディスカッション （日本の技術の優位性と開発戦略及びポスト京都メカニズム） 6. 総括 7. 閉会の辞	平成 20 年 3 月頃開催予定

テーマ	目的・期待される効果・プログラム（案）	備考
第 3 回 科学技術政策と気候変動対策の動向	【目的】 洞爺湖サミットに先立ち、関係国等大使館の、科学アタッシェに、各国の温暖化対策に関する科学技術政策の動向を説明してもらい、政策の理解を深める。また、科学技術がいかにして温暖化対策に寄与できるかについて、国家間のアタッシェレベルで議論する。 【プログラム（案）】 1. 開会の辞 2. 基調講演 3. 各国の科学技術政策と気候変動対策 （※参加国は検討中） 4. パネルディスカッション（気候変動対策の国際協働） 5. 閉会の辞	平成 20 年 4 月 or 5 月頃開催予定